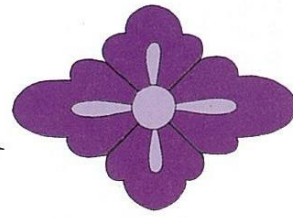




菩提樹

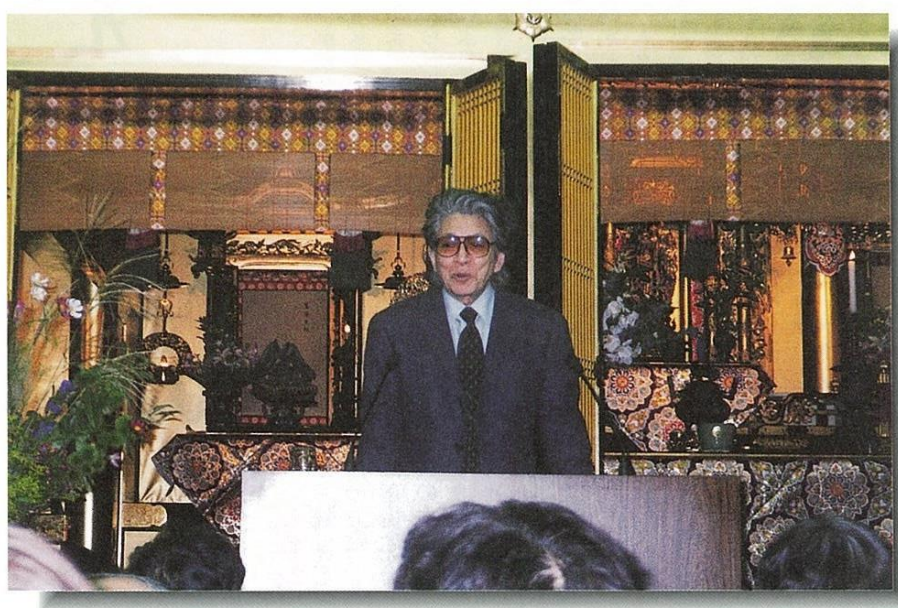
佛さまに育てられる年輪

第3号 平成14年12月発行



編集・発行
正法寺
山口市大字江崎
2710
TEL
083-989-2213
FAX
083-989-5339

第20回 公開講演会



蓮如上人五百〇〇回遠忌 おんき

作家 五木寛之氏 来寺（九月七日）

演題 「慈のこころ、悲のこころ」

お待受記念講演会 まちうけ



門徒会館(1階・2階)はモニターテレビ
境内は大型スクリーンを設置。
本堂の内も外もいっぱいの聴衆でした。

- 2P・・・蓮如上人五百回遠忌を
迎えるにあたって
- 3P・・・おじゃましまあーす
- 4・5P・・・法座特集 その2
- 6・7P・・・平成14年活動内容
- 8P・・・いろいろなご縁に
出遇えました



蓮如上人五百回遠忌を 迎えるにあたって



住職
真城瑞洋

蓮如上人のご生涯については別の機会に譲り、蓮如上人の本願寺教団におけるご功績と、上人がご在世になられなかつたら親鸞聖人のみ教えは、今日私達に伝えられることはなかつたであろうと言われるゆえんを説明してみたいと思います。

一、文書伝道をされたこと
「御文章」は当時、お文といひ、蓮如上人からの私へのお手紙として書かれたものであり、多くの方へ届けられる文書伝道の方法がとられたのです。現在蓮如上人が四十七才から八十四才までの間に書かれたお文が二百六十六通現存しますが、この便りが、教化伝道組織『講』に届けられ集い来る人々に読み聞かされ、民衆に浸透していったのです。当時、仏教の教えは、修行する人のもので、一般の人には全く無縁のものでした。その教えが一般民衆や、それまでの仏教では全く無視されて

いた女性へ解放されたのです。

この私が出家修行せず、在家の生活のままで、仏に成れることを教えられました。大飢饉や争乱により生きる支えを失なつた人々に、「如来の本願を信じ(信心正因)、念仏申さば(称名報恩)仏に成る。(往生浄土)」と説かれたのであります。当時の人々にとつて、唯一本の生きる光明が与えられたと言つて過言ではありませぬ。蓮如上人が若い頃から学び抜かれたみ教えを、生きる目標を持たぬ庶民(凡夫)に、この私が救われることを教えられたのです。

二、勤行にお正信偈を制定されたこと

民衆の心の支えに「お正信偈」が制定され与えられました。そして僧侶のみでなく大衆が、お勤めする聖教が定められ、お正信偈が日常の勤行に用いられました。今日でも、帰命無量寿如来といえは『浄

土真宗』と人々から認知されるのは正信偈制定のお陰であります。正式には正信念仏偈といひ、親鸞聖人の主著、教行信証の行巻より取り出して定めてくださり、民衆の手に渡るはじめてのお聖経であつたといえます。宗教心は勤行なくして育ちませぬ、一大転換です。それまでは、天台宗のお勤めをしていたのです。

浄土真宗の独立を意味するのです。

三、寺院が建立されたこと

浄土真宗の寺院は、修行したり、加持祈禱を行なうところではありません。阿弥陀如来の本願を聴聞するところからです。仏さまには縁遠い私が救われ、生死の問題を解決し、思いのままにならぬ人生の姿に気づかされる場なのです。だから吉崎御坊、山科本願寺石山道場(本願寺)が民衆の力により建立され、それが伝道活動の拠点となり、さらに

教化団体の掟等も必要となり教団としての体制が築かれてくるのです。全員伝道の姿勢も生れたのです。

四、信仰の対象、お名号が定められたこと

とにかく蓮如上人は十字、九字の名号もお書きになっていきますが、六字名号(南無阿弥陀仏)を書いて書きまくつて、信仰の対象、日々の生活の依り所、帰依する仏さまを明らかにされたのです。末法時代に私達が救われるのは阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)以外にないことを具体的に民衆に示し、名号を与えることを実践されました。石山本願寺は蓮如上人のお書きになつたお名号で建立されたこと申されるくらいです。

五、平生業成の教え、平座の姿勢を示されたこと

私が往生する因が決定する場所は、今ここにしかない。

ただし後生の一大事(往生・生死の問題)に問を持たなければ、救いの答えが与えられていても通じないことをお説きになっていきます。さらに平座をもつて、如来の前にすべて平等であることを示され、宗祖の「弟子一人を持たず」「御同朋、御同行」の姿勢を鮮明にされました。特に蓮如上人は、兄弟道として説かれ、(兄弟は親一人しか存しない)等しく御念仏の法にあう身で、師弟道でないことを示されています。

その他、大事な問題も残つてはいますが、この点だけを考へても、いかに画期的な伝道であるかがわかります。一気に何十萬という信者、門徒ができ、念仏の花が咲いて日本における大教団の基盤が築かれたのであります。



「ナモアマダブツ」が一番

おじやましまあ〜す

このコーナーでは、お寺との縁を通し、おみのりをよここばれている方々を紹介していきたいと思ひます。



白川勝二さん
大正五年一月一日生
八十六才
(下高根)

また、お寺参りをして、ご法義を聞く事が一番の楽しみであり、阿弥陀如来さまが「よう参ったのう」と言つて下さるようだとお話して下さいました。

白川家では、毎朝お仏壇の前でおつとめをしてから朝食を頂くことが習慣となつています。

お母さんがいつも「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と称えられ、その姿を見て育つたので、お母さんが亡くなられた後はお寺参りが当り前のように自分に受け入れられ、お参りを続ける事ができましたとおっしゃいました。



国吉文江さん
大正元年八月七日生
九十才
(深溝西)

幼少期より、日曜学校は欠かさず通われて来たそうです。こちらに嫁いで来た時、お姑さんが、仏教婦人会のお役目を受けておられ、その後を自然と受け継ぐ事が出来たと話されました。

長きにわたり、お寺の行事のお料理を一手に引き受け頑張つて下さいました。毎日、朝晩のお参りは欠かされることなく、お仏壇のそばには、足がご不自由な国吉さんの為の椅子が置かれていました。

いつも幸せ

仏社会長 伊藤公祐

人生に悩みは付きものです。

五木さんの講演会を終えて

日本のベストセラー作家、目下人気No.1の五木寛之氏に、ご来寺頂き、含蓄ある素晴らしい講演を賜りました。

『人間は、一人生れ、一人命終つていかねばならぬ孤独な存在だ。そして思い通りにいかないことばかりで、愁い、苦しみ、悲しみから離れられない。終戦後、元気で楽しく、おかしく、笑い一杯の日々こそ、めざす人生だと思つて生きて来たが、光と影の如く、影の世界なしでは生き

ていけない。さらに相手の気持がわかるといつても、その身のすべては受け止められない。だからこそ、慈のころ、如来さまの真実のところに支えられないと生きてゆけない。暗愁(しのびよる愁い)や、いかんともしがたい悲しみを、溜息でいやされるときは溜息をつきながら、また慈のところに触れながら、潤いある人生を生かされて参りましょう。』とおっしゃって下さいました。

に素晴らしいお話、聴いたことありません」とか「広辞苑をめくると、立板に水といった感じで頭が下つた」とお礼状を頂き、是非、今後も続けて欲しいと願いが届けられました。懐中電燈を持った保育士の先生方のやさしい声でのご案内、仏壮の方々の整然としたお持ち受け、これもまた忘れぬ、講演会を支えるあたたかさやパワーでした。有難うございましたと、多方面からお礼を頂きました。当日の聴衆は、千百名近くで今回が最も多く、引受けにとつても大変うれしいことでした。

新役員紹介

仏教壮年会(同心会)

- 会長 伊藤 公祐 (今井)
- 副会長 田村 宗之 (佐山)
- 副会長 泉 専六 (東今津)
- 会長 若崎 由紀 (向原)



誰の人生にも悩みは一切ないといふ人は先ずいません。経済・生活・男女・病気による悩み、肉親や友達との死別の悲しみなど様々です。

それに出会つた時、私達は佛の光を受けて、悩みや悲しみを和らげ、その壁を乗り越えることができます。御仏に向かいお念仏することにより、何物にも喩えようのない幸せに気付く私であります。南無阿弥陀仏を称えることは、悩みの多い中にあって、いつも幸せなことです。

ともに活動を

仏青会長 若崎由紀



私達仏青は、毎月一回活動をしています。法座やご院

皆様のお話を聞く他、ゲーム大会やバーベキューなど楽しい活動もしています。平成十七年には、仏青全国大会を山口教区で引き受けることになりました。ご門徒の若い方々、一緒に全国大会を盛り上げましょう！たくさんの方のご協力、お待ちしております。

法座特集 その2

親鸞様のご法事

ごしょう きほう おんこう
御正忌報恩講

一月十四・十五・十六日

聖人を慕う報恩講

…一年でもっとも大切なご法座です…



宗祖親鸞聖人（一一七三〜一二六二）のご命日をご縁として、聖人のご苦勞をしのび、ご恩に感謝するとともに、私自身がみ仏の教えを聞かせていただくご法座です。

親鸞聖人が、九十歳を一期としてご往生あそばされてから長い歳月が経っています。その間には、人は代わり、社会の状況も、生活環境もはげしい変化をみせています。

しかし、聖人を慕い、そのみ跡をしのんで念仏する人たちは、年ごとに報恩講を大切におつとめされてきたのです。

私たち罪悪生死の凡夫の身が、かならず救われるというお慈悲に遇えるのは、ひとえに、聖人がご出生くださって、ご苦勞くださったことによるものであります。

このことに、心からよろこびの念をあらわし、そのご恩に感謝申しあげるのが報恩講のご法座です。

御正忌報恩講の三日間の法要

※午前は9時30分より ※午後は13時30分より ※夜は19時30分より

一月十四日 御正忌報恩講 一日目

- 午前 母親講座（やよい会・嘉川保育園）
- ・『らいはいのうた』のお勤め
- 午後
- ・お勤め『しんじんのうた』

一月十五日 御正忌報恩講 二日目

- 午前
- ・『正信念仏偈』のお勤め
- ・御文章の拝読
- ・お斎
- 午後
- ・体験発表：嘉川保育園・総代会
- ・『三奉請』『表白文』『正信念仏偈』のお勤め

夜 大速夜（同心会進行）

- ・体験発表：日曜学校・仏教青年会・若婦人会・仏教壮年会（同心会）
- ・初参り紹介
- ・『正信念仏偈』のお勤め
- ・御伝鈔拝読

一月十六日 御正忌報恩講 御満座

- 午前
- ・『十二礼』のお勤め
- ・御俗姓拝読
- ・お斎
- 午後
- ・体験発表：大内光輪保育園・仏教婦人会
- ・『三奉請』『表白文』『正信念仏偈』のお勤め
- ・焼香

お取り越し(おとりこし)の法要

親鸞聖人をしるので行なう法要です。

ご命日の一月十六日はお寺で御正忌報恩講をつとめますので、それに先立つてつとめます。各家庭でも家族でご縁に合うために、一軒ごとにご住職を迎えてつとめられ、真宗門徒とし

大逮夜(おおたいや)の法要

親鸞聖人の亡くなられる前日の夜の法要のことです。かつて聖人を周囲の人が徹夜で看病されたことの名残りです。

正法寺でも、昔は寺内の青年たちがこの夜に集い、徹夜で語り合っていたということです。

御伝鈔(ごでんしょう)の拝読

聖人のご一生をつづつたもので、聖人の誕生、法然上人(ほうねんしょうにん)との出会い、流罪(るざい)、関東での教化、ご往生が劇的に語られており、身の引きしまる寒さの中で読まれ、聖人のご生涯をしのび、えりを正す法要になります。

御俗姓(ごぞくしょう)の拝読

蓮如上人が、わかりやすいことばで親鸞聖人の徳をたたえら

れたご文章です。ご満座(ごまんざ)で拝読されます。



て最も大切な法要とされます。正法寺のご門徒でも各家庭でつとめられる家がたくさんありますし、「寺内の総お取り越し」「藤河内地域」などは、地区の報恩講として毎年つとめておられます。



▲初参り 新婚さんの顔もかがやいて



▶正忌奉讀作品展示

日曜学校



▶お齋

▲体験発表
各組織の代表からの発表
活動がよくわかります。



裏方さんに感謝

報恩講の当番は、前寺内二班後寺内二班の四班が交代であたります。

十二月中頃、門徒の方の仏具のお磨きから始まります。一月五日頃、お寺様と当番の班がお齋などの打ち合わせをします。十日頃、華餅をつき、円筒形の筒に流し込んだ棒状のものをたくさん作ります。十二日頃、そのお餅を薄く切つていきます。形よく積み上げたお餅はきれいに色づけします。

仏前は、立華、お供物、華餅で荘厳され、本堂・山門も幕が張られ、いよいよ報恩講の準備が整ってきます。

十四日、母親講座からお勤めが始まり、台所はお齋の準備に忙しくなります。大釜でけんちようを炊きます。軽トラいっぱいの大根、お漬物一樽、いちごなどのご報告もあります。寒い時期、お餅や大根を切るのし手がしびれ凍りついてしま

いそうです。
十五日の午後からは、親鸞聖人の好物であったあんこ餅をつき、お供えします。お華餅は、お世話人さんが各家庭に配ります。寒く忙しい中にも、心引きしまり、やり通した安堵感に包まれて当番の大役が終わります。



平成十四年活動内容

修正会

(しゅしょうえ)

一月一日午前一時より、新春を寿ぎ、慈光の中に生かされていることに感謝する集いとなりました。記帳をし、申さして乾盃、お香とカレンダーをお土産に頂きました。総勢百五十名。

御紐解法座

(おひもとぎ ほうぎ)

一月四日九時半より、正法寺の新年伝道開始の法座です。夕べは総代と教化団体の役員で新春会が催され明年の大法要の発表がありました。



報恩講

(ほうおんこう)

一月十四・十五・十六日、年に一度の親鸞様のご法事、報恩

講です。門徒中集い、宗祖の遺徳を偲びました。

講 師 中島正念師
法座当番 岡屋東班

十四日、やよい会(若婦人部)、嘉川保育園保護者の会主催の講座開催、やよい会報50号が発刊されました。午後から三日間に亘る報恩講修行。

十五日正法寺報恩講次第に従い、参詣者全員でお正信偈拝読の上、修行。今年はお天気もよく、本堂も満堂、にぎやかな報恩講でした。夕べの大連夜は、昨年一年間の新婚夫妻をお招きし、紹介がありました。

上高根 恩村 努・和子
岡屋 徳田俊正・千恵子
岡屋 中村育弘・早苗
上高根 藤永智之・亜紀子

日校生は夕刻、若婦人の皆さんのお世話でお齋を頂きました。大連夜は仏壯、仏青の皆さんで本堂満堂、全員におじやの接待がありました。

十六日は報恩講のご満座法要、ご俗姓、ご文章の拝読があり十二礼のお勤め。午前の法座後、

昨年一年間の開法表彰が行なわれました。十回以上十二名が表彰されました。

- 下高根 田中 安子 三十回
- 下高根 棟久 歌子 二十七回
- 今津 西村 基行 二十六回
- 上高根 伊藤 武夫 二十一回
- 岡屋 伊藤トトセ 十五回
- 岡屋 伊藤 幸雄 十三回
- 下高根 今本 米子 十三回
- 上高根 伊藤 貞子 十二回
- 上高根 山本ミドリ 十二回
- 厚東 渡辺 礼二 十二回
- 下高根 白川 勝二 十一回
- 岡屋 伊藤 愛子 十一回
- 岡屋 西村ヒサ子 十回

三日間の法要中に次の方々の体験発表がありました。

- 日校代表 岸山 千恵
- 若婦代表 三浦 則子
- 保育園代表 岩佐 寛美
- 仏青代表 石丸亜希子
- 仏婦代表 井本香代美
- 仏壯代表 伊藤 紀子
- 仏代代表 泉 専六
- 総代代表 田中 省信
- 総代会長さんの司会のもと行われました。今年のご正忌は好天氣で大変にぎわいました。

御命日定例法座

二月十六日

講 師 小川恵真師
法座当番 総代
仏教婦人会役員

春期彼岸会法要

三月十二日・十三日

講 師 香川孝志師
法座当番 高根上、高根中組

仏教婦人会総会

四月十三日

講 師 波佐間正巳師
新年度の出発が会員参詣のもと、行なわれました。

永代経法要

(えいたいきょう ほうぎょう)

四月二十六日・二十七日

講 師 橋本明宣師
法座当番 楢小野
年に一度の門徒中の総法事です。浄土真宗のみ教を聞き、ご先祖の願いである聴聞に徹するご縁でした。

宗祖降誕会

(しゅうそ こうたんえ)

五月二十一日

法座当番 能楽、高根下組
浄土真宗の年間唯一のお祝いの法座です。親鸞聖人のお誕生をみんなでお祝いしました。
十一時半より宗祖のご誕生を

記念しての初参式があり、午後には祝賀会、お餅撒が盛大に行なわれました。

初参式 受式者名

- 岡屋 伊藤 雅治
- 兔地 伊藤 靖浩
- 下高根 本永 満輝
- 上高根 伊藤 大輝
- 高見 渡辺 純也
- 楢小野 重本 和義

初参式 対象者
今津丘 三浦 一輝

嘉川保育園子ども盆踊り大会

七月七日

嘉川保育園の保護者、地域の皆さん、学童、集まっつての夏のイベントです。
南園舎とのお別れを中心に、参加者全員で感謝の集いとなりました。和太鼓、「ありがと」の歌は特に心に残りました。風船でブランコを飾りお別れしました。夜店、バザー、花火の集いと保護者の会の役員さんの支援でにぎわいました。

夏期法座(安居会)

(あんどえ)

七月十六日

講 師 弘中英正師
法座当番 藤河内

安居にゆかりを持つ法座で農繁を終えてのご縁ですから「つくり上り法座」ともいいます。

山口南組子ども研修会

七月二十二日・二十三日

正法寺の引き受け。山口南組の若僧の皆さんの指導のもと、正法寺仏婦、若婦、仏壯の協力で意義ある一泊研修となりました。

御盆会法座

八月五日

講 師 中山和泉師
法座当番 阿知須 旦

嘉川保育園成人式

八月十日

嘉川保育園の卒園児の成人式。二十七名が本堂に集いお正信偈のお勤めをし式典を実施、園で祝賀会が行なわれました。来賓、恩師、母の会の元会長に激励されました。

正法寺盆踊り中止

仏教婦人会 追甲会 秋期大会

九月二日

講 師 中川正法師
体験発表 有田文字

第二十回公開講演会開催

九月七日 十九時より

講 師 作家 五木寛之氏
素晴らしい講演会で感動を多くの方に与えました。

秋期彼岸会法要

九月十七日・十八日

講 師 紫藤常昭師
法座当番 佐山・新地・鳩岡
じっくり、浄土真宗のご法義に触れました。

正法寺敬老会

九月二十三日

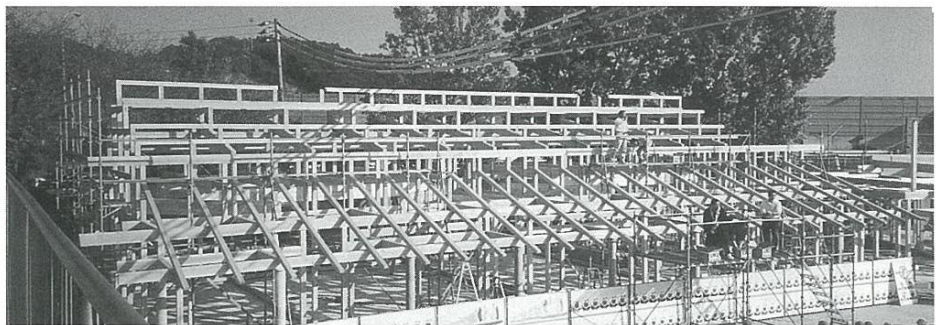
七十七才以上の正法寺のご長老を教化団体でお招きする集いで、花柳扇咲社中の皆さんの舞踊、げに太鼓の演奏、参加者の出し物もあり、楽しい、友人にもめぐり会える敬老の一時でありました。参加者六十名(対象者二〇一名)で、欠席者には仏教婦人会より施本、ケーキが贈られました。

大内光輪保育園運動会

十月五日

嘉川保育園運動会

十月十三日



落成が待たれる新園舎(嘉川保育園)

大内光輪保育園もすでに三回目の運動会、地元の皆さんのご支援、ご理解を得て、楽しい大運動会が催されるようになり、園児の一人一人も力強く育てられ鼓隊の演奏も始まり、内容ある運動会となりました。
嘉川保育園は今年新園舎建

築中で、運動場は最も狭い状態ではありましたがよく練習し、バラエティに富んだ運動会でありました。

運動会後は白松苑、秋楽園、梅光苑、幸楽苑に和太鼓、鼓隊で演奏に出かけ、老人との交流会を催し、老人にも楽しんで頂きました。

日校バードウォッチング

十一月十日

阿知須きらら浜自然公園に日校生全員で自然観察に出かけました。淡水湖や海辺、菅原に来る渡り鳥の生態に触れ有意義な体験でした。

御命日定例法座

十一月十六日

講 師 小川恵真師
法座当番 総代 仏教婦人会役員

御命日定例法座

十二月十六日

講 師 藤本唯信師
法座当番 総代 仏教婦人会役員

年末法座として催し、一年間を顧み、仏に育てられる必要を痛感するご縁でした。夕べは正

法寺お内仏と寺内の総お取り越しが催されました。

仏教婦人会おみがき奉仕

十二月十四日

正法寺年末清掃奉仕

十一月三十日、十二月二十五、二十八日
仏壯、日校、仏青の清掃奉仕

除夜会 (じよえ)

十二月三十一日 夜十一時
除夜会の後、梵鐘を撞き、行く年を送り、来る年を慈光の中に迎えるご縁が持たれました。

正法寺への 物品報謝

- * 明年の大法要に向けて
- 一、打敷四枚(ご本尊様・ご開山様・蓮如様・金華蔓かなげまん)
- 一、正法寺 仏教婦人会
- 一、ご本尊戸張
- 一、玄珍 白井都師子
- 一、下高根 上田千代子
- 一、本堂用大時計
- 一、北の江 桃木 守夫
- 一、エアーポット 七本
- 一、深溝 藤永 紀子



みんなで仏旗を揚げて
さあ楽しい一日がスタート

山口南組仏教子供会研修会

7月22日～23日 正法寺引受



3年生から6年生まで21名の子どもたち。すぐ仲よくなり、バッチ作り、キャンプファイヤー、今津山ウォークラリーと2日間楽しくすごしました。

いろいろなご縁に
出遇えました。



8月3日・4日

仏青^{ぶっせい}全国大会
in 岐阜

いっぱいのおもいで
ありがとう



さよならブランコ・南園舎



9月23日

敬老会



向拝^{こはい}の石畳完成

「報恩講」を調べてみて、委員一同、今まで知らなかったことで「なるほどなあ」と納得させられることがたくさんありました。
若い次の世代にお念仏のよろこびを伝えていくのは、やっぱり私たちおとなの責任です。この紙面を、家庭で、地域で、お念仏の輪を広げるきっかけにしたいと大きく願っています。

編集後記

— 稚児のご案内 —
蓮如上人五〇〇回遠忌法要
三十年ぶりの稚児行列です。
記念にふるってご参加下さい。

平成稚児募集
日時 平成十五年五月三日、
十一時より正法寺集合
(直接お申し込み下さい)

参加費 老萬円
(衣装代、記念写真、
弁当、花束代を含む)

岩瀧山
正法寺